



ミルク給食(1960年)

日時

2023年2月11日(土) 午後1時半~3時
(受付開始午後1時)

会場

福岡県立大学 講堂

〒825-8585 福岡県田川市伊田4395
(または大講義室 または附属研究所 大セミナー室)

参加費
無料
※要事前申込

シンポジウム

筑豊の炭鉱閉山期、「筑豊の子供を守る会」の活動を振り返る

司会進行

細井 勇 (福岡県立大学特任教授)

シンポジスト

犬養 光博 (2年目の「守る会」の活動から参加、その後、福吉伝道所を開設)

黒沼 宏一 (第4代「守る会」委員長)

桜井 秀教 (第6代「守る会」委員長)

鬼塚 香 (福岡県立大学准教授)

守る会の活動に参加して 数人からのコメント

座談会のご案内

公開講座は午後3時でいったん終了としますが、10分休憩し、午後3時10分から座談会として1時間程度、意見交換の場として継続します。参加希望の方は、附属研究所大セミナー室に移動をお願いします。座談会は申し込みの先着50名様にさせていただきます。

筑豊の炭鉱閉山期、 「筑豊の子供を守る会」 の活動を振り返る

筑豊の炭鉱閉山期、 「筑豊の子供を守る会」 の活動を振り返る

日時 2023年2月11日(土) 午後1時半～3時(受付開始午後1時)

会場 福岡県立大学 講堂 (または大講義室 または附属研究所 大セミナー室)

戦後日本に雇用の場を与え、経済的復興を牽引したのが産炭地筑豊でした。しかし、1950年代後半から、エネルギーの石炭から石油への転換を通じて、筑豊は巨大な失業地帯へと劇的に変貌しました。筑豊は中小炭坑が集積していた地域であり、燃料、電気、水道を炭坑に依存した炭住の共同生活は一挙に破壊されることになりました。1960年に土門拳の写真集「筑豊のこどもたち」が刊行されると、学生達の筑豊への関心が高まり、「筑豊の子供を守る会」が発足し、ミッション系の10前後の大学がそれぞれチームを作り、各炭住に2～3週間住み込み、子ども会活動を担っていきました。その中央組織が解散するのは1967年です。

学生達は経済的反映の影にある日本の現実を目にし、衝撃を受け、悩み、葛藤し、社会運動か福音的奉仕かで議論となり、解散に至ったのです。このたび、中央組織を担った方々から直接証言していただき、その軌跡を改めて振り返り、その今日的意義を、筑豊の、とりわけ田川市の市民と共に、再考したいと思えます。多くの市民、学生のご参加をお待ちしております。



炭住での子ども会活動 (1961年)

◆申込方法

右記のQRコードか下記のURLよりお申込み下さい。

<https://forms.gle/eXAr5EPSCBcMtvAN6>



※申し込みの締め切り

会場決定の参考にしますので、申し込みは **1月27日(金)** までをお願いします。

対面での実施を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン開催になる可能性があります。

オンラインに変更の場合には参加申込者に連絡をさせていただきます。

◆交通アクセス

JRを利用する場合

博多方面から

博多駅→新飯塚駅→田川後藤寺駅→田川伊田駅
(約1時間20分) 徒歩約15分

小倉方面から

小倉駅→田川伊田駅

(約1時間) 徒歩約15分

西鉄バスを利用する場合

福岡(天神)方面から

西鉄天神高速バスターミナル→福岡県立大学
(約1時間25分～1時間45分)



問い合わせ先

福岡県立大学 附属研究所

福岡県田川市伊田 4395 TEL: 0947-42-1326 (村田)